

警察庁丁交企発第7号
国自安第247号
平成28年2月3日

公益社団法人日本バス協会会長 殿

警察庁交通局交通企画課長

国土交通省自動車局安全政策課長

貸切バスのシートベルトの着用徹底について

本年1月15日、長野県北佐久郡軽井沢町の国道18号線碓氷バイパスにおいて、貸切バスが反対車線を越えて、道路右側に転落、乗員・乗客15名が死亡し、乗客26名が重軽傷を負うという重大な事故が発生した。

本件事故の発生要因等については長野県警察において現在捜査中であるが、本件に関連する報道では、この種の貸切バス等では、乗客がシートベルトを着用していないことが多いとの指摘がなされているところである。

シートベルトの着用は、衝突時の被害を軽減したり、車外放出の危険性を低くする等、死亡事故防止に効果があり、また、道路交通法（昭和35年法律第105号）において全ての座席においてシートベルトを着用させるよう運転者に義務付けられているところであるが、今般改めて下記事項について貴協会傘下会員に対し周知・徹底を図られたい。

記

- 1 乗客の安全を確保するため、次の事項について徹底すること。
 - (1) シートベルトを座席に埋没させないなど、シートベルトを乗客が常時着用することができる状態にしておくこと
 - (2) 別添リーフレットの座席ポケットへの備付け等により乗客へのシートベルトの着用の注意喚起を行うこと
また、貴協会において配布しているステッカーや事業者が各自作成しているステッカーについても、座席に貼付するなど積極的に活用すること
 - (3) 車内放送等により乗客にシートベルトの着用を促すこと
 - (4) 発車前に乗客のシートベルトの着用状況を目視等により確認すること
(交替運転者や添乗員の補助を得ることも可)
- 2 その他、待合室や営業所への備付け、安全キャンペーンでの街頭配布を始め、あらゆる機会を捉え、別添リーフレットを配布すること等により、シートベルト着用の励行を図ること。
- 3 乗務員に対し、適正にシートベルトを着用するよう指導すること。

バス乗車の際は シートベルトを締めましょう

シートベルトを着用しないと、

高速道路で 約9倍

一般道路を含めると 約14倍

命の危険性が高まります!!



※ 出典:平成26年 交通事故統計(シートベルト着用有無別致死率)